

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

資料2

主な成果	・目標に対する達成状況について、(A)以上の割合が9割を超えている(93%)ため、概ね順調に推進することができた。
今後の課題	・安定した事業運営のため、担い手の確保、町内自治会(役員の交代)・関係団体との連携、活動拠点、活動資金の確保が必要である。 ・コロナ禍で如何に活動を継続していくか。

令和3年度の取組の方向性	・基本的な感染対策を行いながら、出来る取組から実施する。 ・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして実施する。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
--------------	--

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績	
1 見守りの仕組みづくり	12	S	1	・見守り活動は、重点取組課題として取り組んだ地区(以下:重点取組地区という)12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を啓発する取り組みを行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートを検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
		A	8	
		B	3	
		C	0	
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S	2	・いきいきサロンは、重点取組地区9地区で実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、ランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施。高齢者の福祉活動の促進に関する取組は、福祉施設でのボランティア活動を重点取組地区1地区が実施し、高齢者の交流、健康維持や社会参加の促進を図った。
		A	16	
		B	0	
		C	0	
3 障害者を支える仕組みづくり	4	S	0	・地域行事での障がい者施設の物品販売への協力、障がい者施設での作業補助や行事の手伝い、障がい者理解のための勉強会の実施等、障がい者の理解や住民との交流の機会を設ける取り組みは、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施した。
		A	4	
		B	0	
		C	0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	15	S	1	・セーフティウォッチャー等、子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施地区17地区)で実施。また、子ども向けの地域行事や放課後子ども教室等、子ども達との交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施地区17地区)で実施。子育てサロンは重点取組地区7地区(実施地区16地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、子ども達の健全育成を図った。
		A	14	
		B	0	
		C	0	
5 健康づくり	8	S	1	・散歩クラブ、シニアリーダー体操、ランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
		A	7	
		B	0	
		C	0	
6 防犯・防災に対する取組み	27	S	0	・避難所運営委員会は重点取組地区8地区(実施17地区)で実施。子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施17地区)で実施。3期計画当初に作成した「ふくし・防災ガイドマップ」により重点取組地区2地区(実施17地区)で情報提供を行っている。防犯の取組は重点取組地区5地区(実施17地区)で実施。防災訓練は重点取組地区6地区(実施17地区)で実施した。
		A	23	
		B	4	
		C	0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	7	S	0	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動については、重点取組地区3地区(実施地区8地区)で実施した。また、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で実施し、担い手の拡大に努めた。
		A	7	
		B	0	
		C	0	
8 福祉教育・啓発	12	S	0	・子ども向けの地域行事等を通じて交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施17地区)で実施した。障がい者と住民との交流の機会を設ける取り組みは重点取組地区3地区(実施16地区)で実施した。住民の福祉力向上のための講座は重点取組地区4地区(実施16地区)で実施した。児童に対する福祉教育は重点取組地区3地区(実施16地区)で実施した。
		A	12	
		B	0	
		C	0	
9 地域のつながりづくり	14	S	0	・重点取組地区7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した(区内の地域運営委員会は4地区)。高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動は、重点取組地区3地区(実施8地区)で取り組んだ。地域行事等を通じて住民同士の交流を図る取り組みは重点取組地区4地区(実施17地区)で実施した。
		A	13	
		B	1	
		C	0	
10 相談支援体制と情報提供の充実	12	S	0	・重点取組地区7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した(区内の地域運営委員会は4地区)。重点取組地区3地区で相談支援の環境づくりに取り組んだ。重点取組地区2地区を含む全地区部会で広報紙を発行し福祉情報の提供を行った。
		A	11	
		B	1	
		C	0	
合計	129	S	5	
		A	115	
		B	9	
		C	0	

◆コロナ禍における好事例等

※ 記載については、地域福祉専門分科会に報告する1～2事例をご紹介します。
(「コロナ禍における地域福祉活動について」に記載の事例等を参考としつつ、枠内に収まらない場合は、A3裏面1枚の範囲で追加いただいて構いません。)

【地域のサロンで実施した新型コロナウイルス感染症予防の啓発のための講座を、民生委員を通じて区内の地域住民にまで広めた事例】

白旗台地区部会エリアで、令和2年12月21日(月)に花輪町自治会館において、千葉市環境保健研究所より講師を招き、「ウイルスによって起こる病気と検査の話」をテーマに市政出前講座を実施。全国的に新型コロナウイルス感染者も増加している時期であったが、事前の検温、参加者同士の距離をとり、換気を行いながらの実施で、内容もわかりやすく好評であった。
一方、毎年、支援・援助技術の向上と区内の民生委員・児童委員相互の交流を図る事を目的に、委員が一堂に会し開催していた「中央区民生委員児童委員全体研修会」においては、二回目の緊急事態宣言が発出されたこともあり、全委員参加での開催が困難となった。
そこで、コロナ禍において、民生委員及び支援対象者の関心が最も高いと思われる前述の講座を、3月の区民児協定例理事会において、各地区会長向けに企画・実施。講師の了承のもと、当日資料と併せて、講演の様子を撮影し、動画のDVDを各地区へ配布。各地区民児協において地区民児協定例会において当該動画を上映。担当民生委員を介して支援対象者に対して注意喚起を行うことにより、区内の新型コロナウイルス感染症予防の一助となった。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性	
都地区部会エリア								
【人口・世帯数】								
9, 243人、4, 623世帯	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、独居高齢者を対象に実施している買い物支援の実施回数を月2回から月4回に拡充した。この取り組みは見守り活動の一環となっている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね目標を達成した。 これまでの都町東部自治会館から都町自治会館へ会場を変更し、徹底した感染対策を取りながら、再開に向けて準備中である。 しかしながら、担い手不足の問題も解決には至っていない。 今後、安定した事業運営のための担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 ・活動の中で最も要望が強く、リスクも少ないと思われる手芸の再開の準備をしている。	
【町内自治会数】								10町内自治会
【高齢化率】								24. 4%
【地域の特徴】								○都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区の加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	いきいきサロン都クラブとして平成25年7月から始めている。偶数月は健康麻雀や健康体操、手芸等、奇数月は、グランドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、60歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグランドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する歳末慰問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布し、参加者の増加に努めている。	A				
⑨ 子育てサロンの充実	4	月に1度、育児サークルとして「いちごみるく」を開催し、乳幼児から就学前の子どもを持つ母親の情報交換の場を提供し、子育て親子の仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や保健師による育児相談、絵本読み聞かせ等、内容の充実を図り、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A				
⑬ 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	3	障がい者施設での作業補助等を通じて、障がい者との交流を図る。 また、障がい者が地域で福祉活動を行う機会を提供し、障がい者の社会参加の促進を図る。	町内自治会婦人部が、障害者支援施設「しいのみ園」を利用している子ども達と一緒に、第一土曜日の午前中に、公園の清掃を行っている。 また、スポーツ振興会が障害者支援施設「しいのみ園」でポッチャを通じて交流を図った。	A				
末広地区部会エリア								
【人口・世帯数】								
12, 681人、6, 787世帯	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害時に、迅速な避難が行えるようにするため、地域の各団体と協議し、避難所運営委員会の設立を進める。 また、民生委員と町内自治会が連携し、災害時要支援者の情報共有を図る。	災害時に迅速な避難が行えるようにするため、平成30年度に設立された末広中学校、末広公民館の避難所運営委員会では、避難所開設訓練の実施に向け協議し、令和2年度の訓練実施を予定していたが、コロナの影響で開催には至らなかった。 なお、既に設立されていた避難所運営委員会では、避難所開設訓練を実施している。 また、民生委員と町内自治会に、災害時要支援者の把握と情報共有を図った。	B	新たに設立された避難所運営委員会が避難所開設訓練の実施に向けた準備を進めている。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	
【町内自治会数】								4町内自治会
【高齢化率】								20. 8%
【地域の特徴】								○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。 また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉も森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量の増加している。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性				
寒川地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害発生時に備え、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練や、災害時要支援者の避難訓練を実施し、避難支援体制のさらなる充実を図る。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。 また、災害発生時に備え、令和元年8月31日に、地区部会が災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が6町内自治会合同の防災訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図った。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 町内自治会役員や民生委員等の担い手が不足しており、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。				
【人口・世帯数】								5,670人、3,108世帯			
【町内自治会数】								6町内自治会			
【高齢化率】								22.6%			
【地域の特徴】								○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。			
ちば中央地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会と民生委員が協力しながら、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を実施する。	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。				
【人口・世帯数】								16,092人、9,021世帯			
【町内自治会数】								27町内自治会			
【高齢化率】								24.3%			
【地域の特徴】	○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、玄鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。										
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。 また、避難所運営委員会と連携し、災害時に支援を必要とする人の避難支援について協議していく。	3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。 避難所運営委員会が活動を開始しており、その活動を注視しており、地区部会としてどのような部分で連携協力ができるのかを協議していく。	A						
								⑤ 相談体制・情報提供の充実	10	地域の高齢者増加に伴い、あんしんケアセンターと連携を強化し、民生委員、町内自治会が個別の相談に応じ、高齢者の方々が地域で安心して生活できるよう活動する。 また、地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供し、地域で安心して生活できるような環境作りに努める。	葛城町内会では、町内会、民生委員、あんしんケアセンター千葉寺が参加し、地域課題を話し合うとともに支え合い活動の勉強会を実施した。 また、地区部会では、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の杜なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に2回実施した。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度取組の方向性
中央東地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,712人、8,346世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 25.4% 【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。 千葉市都心モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みを行うためのネットワークをつくるため、あんしんケアセンターと地域ケア会議を年2回開催した。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
			③ 見守り体制をつくる	1			
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会等では、散歩クラブ、ラジオ体操の会などの活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。また、ふれあい・いきいきサロンやボランティア講座の中に、高齢者の健康面に関わるテーマを取り入れ、高齢者の交流の機会を増やす。	地区部会では、いきいきサロンの中で、あんしんケアセンターの介護予防講座や中央区健康課の生活習慣病講座、シニアリーダー体操を実施した。 また、散歩クラブを年1回実施して千葉公園でのウォーキングや体操を行うとともに、シニアリーダー体操を年2回実施し、高齢者の健康維持を図った。 一部の町内自治会では、シニアリーダー体操やラジオ体操を実施した。 各町内自治会の老人クラブでは、グランドゴルフが盛んに行われている。	A		
			⑨ 子育てサロンの充実	4		地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年6回、子育てサロンを実施する。	
東千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,166人、2,035世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会が実施している「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)の活動を統合し、高齢者等のちょっとした困りごとの支援活動を充実させる。 また、対応できないケースに備え、地区内外の支援サービスを取りまとめた「東千葉便利帳」を作成し、利用者に紹介できる体制を整える。	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)を統合し、新たに「ハッピーボランティア東千葉」として支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるような他の支援サービスの一覧を作成している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 担い手の高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	
			③ 見守り体制をつくる	1			地区部会が、高齢者等、支援を必要としている方の近所にお住まいの方に協力を依頼し、日常的な見守りが行える関係の構築を目指す。 また、認知症の知識を地域に広め、住民同士が、お互いを気に掛け、声をかけ合えるような地域を目指し、学習会等を実施する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を年1回実施する。 また、日常的な見守りの協力員が、災害時に要支援者の避難支援を行う体制の構築を目指す。	地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を計画していたが雨天中止となったが、台風の際には民生委員や町内自治会が被害状況の確認を行った。 また、地域の中で防災に関心の高い方々に組織した「防災サポートの会」との協力体制の構築を図っている。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
西千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,697人、6,686世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18.8% 【地域の特徴】 ○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。なお、見守り希望者の更新は毎年行っている。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 町内自治会役員や民生委員等の担い手が不足しており、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを毎年更新し、町内自治会と情報を共有するとともに、災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制を継続維持する。 6町内自治会すべてにおいて防災訓練を年1回実施するとともに、3年に1回、登戸小学校避難所運営委員会の訓練を実施する。	民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催するとともに、備蓄品の確認を行うとともに、地区内の6町内自治会すべてで防災訓練を年1回実施した。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会や町内自治会、社団等地域の各団体が、ランドゴルフや脳トレ、健康体操を実施し、中高年の健康維持、増進を図る。	地区部会では、介護予防教室を年2回開催した。 6町内自治会中、5町内自治会において老人クラブは組織されており、各老人クラブが「グラウンドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的実施するとともに、「バレーボール大会」や「ミニ運動会」を開催した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一倫荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社で、ラジオ体操を行った。	A		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	町内自治会等が、誰もが参加できる地域行事を開催し、世代間交流を図る。	地区部会では、福祉バザーを開催した。 特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催しており、地域の子どもたちが参加している。 町内自治会では、「花見」「盆踊り」「登渡神社まつり」「節分祭」など各種イベントを開催するとともに、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に実施している各公園の清掃活動には、大人も子どもも参加しており、交流の機会となっている。 町内自治会サークルが一同に会して「発表会(文化祭)」を開催しており、地域での交流の場となった。	A		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が、地域住民を対象に、既に活動している人の資質向上や新たな担い手の発掘のため、福祉講座を実施する。	地区部会が、「介護予防教室」を年2回、「防災教室」を年1回、障がい者の理解を図る研修会を年1回開催した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。 さらに、日赤奉仕団が、災害時や平常時における健康生活支援講座を年2回以上実施する。	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車・煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子ども達も参加している。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
中央地区部会エリア			子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちがこわい目に遭った時に安心して駆け込めるよう「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。 地区部会が、弁天小学校の全学年を対象に毎朝の登校時あらかじめ決めた集合場所から校門まで送る、及び1～2年生を対象に毎週金曜日の下校時に校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもりたい」パトロールを実施する。	地区部会では、子ども達の安全を守るため、弁天小学校1年生を対象に「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施した。地区部会・子供会・PTA・青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ24人)が、弁天小学校の1年生27人を、4日間に分け引率し、通学路付近の「こども110番のいえ」20軒の訪問・挨拶を行い、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。 さらに、弁天北部方面の児童を対象に、弁天小学校への毎朝の集団登校に付き添うとともに、弁天小学校の1～2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。 また、児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(参加者314人)。 さらに、弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00～16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マット遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを行った。(年間25回程度) 地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。 ※R2年度は「こども見守り隊」のみ実施	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施したが、担い手の中には就労している人も多く、単発の行事には協力してくれるが、サロン等の定期的な活動への協力者の確保が難しい状況である。 なお、R2年度中止であった防水ゲート開閉訓練は、千葉市から鍵を借用できず、実施困難である。 今後、継続して取り組みを実施していくための担い手の確保が必要である。	・基本的な感染対策を行いつつ、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして実施する。
【人口・世帯数】							
6,610人、3,953世帯							
【町内自治会数】							
6町内自治会							
【高齢化率】							
19.7%							
【地域の特徴】							
○弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。							
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6					
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年13回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場で、延べ13回実施した。中央区健康課の介護予防体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話等を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んだ。	A		
	⑱ 防犯対策の推進	6	地区部会が、子ども達の安全を守るため、児童向けの安全教室を年1回実施する。 また、各町内自治会で防犯パトロールを実施し、防犯に対する意識の向上を図る。	地区部会では、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。 町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	各町内自治会で、防災マップを作成するとともに、防災訓練や、千葉公園の池に設置されている防水ゲートの開閉訓練を、年1回実施する。	弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を年1回実施した。近隣のコンビニエンスストアに排水ゲートの鍵の保管協力を得て、氾濫時の対応にあたっている。また、市の協力により洪水警報サイレン等を設置している。 また、町内自治会ごとに防災訓練を実施した。 弁天小学校の避難所運営委員会では、避難所の円滑な運営を図るため、避難所運営マニュアルを作成した。	B		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
新宿地区部会エリア							
【人口・世帯数】							
12,456人、6,747世帯							
【町内自治会数】							
5町内自治会							
【高齢化率】							
16.4%							
【地域の特徴】							
○新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。							
	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、町内自治会や民生委員と連携し、日常的な目配りや声かけによる見守りが行える地域となるよう、向こう三軒両隣の緊密な人間関係の構築に努める。	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りを願っている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、安心ファイルを作成し、70歳以上の高齢者に配布している。また、見守り活動や支え合い活動に対する住民の意識を把握するため、あんしんケアセンターと連携し「地域のたすけあい活動に関するアンケート」を2町内自治会で実施した。見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	B	概ね計画どおり取り組みを実施したが、地域団体の基盤となる町内自治会役員のなり手が少ないことや、マンションが増えているが町内自治会に加入する人が少ない、地域行事の担い手不足など、問題も少なくない。 安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	町内自治会役員や民生委員が中心となり、日頃から、ひとり暮らし高齢者等とコミュニケーションを図り、災害時には、地区部会が配布している「安心ファイル」を有効活用し、要支援者の支援を行う。	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れができるよう、住民参加による避難訓練を実施し、100人強が参加した。	B		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	各町内自治会の子ども会と連携し、地域行事に子ども達が積極的に参加するよう促す。 また、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿保育所の「にこにこルーム」のボランティアに積極的に参加するとともに、地区部会による子育て支援セミナーを開催する。	町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流している。 地区部会では、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿公民館で「ベビーマッサージ」を年2回開催し、子育て中の親の育児相談を行うとともに、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「昔遊び等の体験活動」に参加し、協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。	A		
	⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	2	地区部会が、「ふれあいいきいきサロン」の実施に向け検討する。 また、高齢者が交流する機会を提供するため、地区部会エリアの高齢者を対象とした行事を検討する。	地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあいいきいきサロン」を年2回実施した。 町内自治会や老人クラブでは、誕生会、ランドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けている。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、地区部会が「歩こう会」を年2回実施するとともに、健康関連のセミナーを年1回開催する。 また、社体と連携しランドゴルフ大会を年2回開催する。	地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年2回実施するとともに、高齢者を対象に認知症をテーマにした健康セミナーを年1回開催した。 スポーツ振興会では、ランドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。	A		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	民生委員が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」を月1回訪問し、作業補助等の活動を通じて、障がい者の理解と交流を促進する。	地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」で、月1回、手作り販売品の作成を手伝うボランティア活動を行い、障がい者との交流を図った。	A		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	住民の福祉力の向上を図るため、あんしんケアセンター等と連携し、福祉に関する研修会を年1回開催する。	地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「認知症について」の講演会を年1回実施した。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
新宿地区部会エリア	⑱ 防犯対策の推進	6	地域の防犯意識の向上を図るため、各町内自治会が、月2回、防犯パトロールを実施する。 また、防犯関連のセミナーの開催を検討する。	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番(京成交番)と地域の犯罪傾向等について情報交換会を開催し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	避難所運営委員会の設立に向けた「避難所準備委員会」の開設に伴い、防災意識の向上を図るため、防災関係の知識の習得に努める。 また、避難所運営委員会の設立の進捗状況によるが、避難所ごとに避難訓練の実施を検討する。	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、住民参加による避難訓練を実施し、100人強が参加した。	B		
蘇我地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会では、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所と共同し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。 また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。 さらに、介護付有料老人ホーム「そんぽの家 蘇我」と地域が連携した取組について協議した結果、施設を利用した高齢者の集いの場を2回開催することができた。 あんしんケアセンター松ヶ丘の多職種連携会議で、関係団体との連携について協議した。	A	計画どおり取り組みを実施した。 自由に利用できる活動拠点、特に子どもが自由に入り出ることができるような場所があれば、そこを拠点に地域住民の交流が図りやすいと考える。 安定した事業運営のためには活動拠点が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 ・DVD、プロジェクターを各拠点に整備し、再開後の活動のために準備している。
【人口・世帯数】 18,500人、9,351世帯							
【町内自治会数】 8町内自治会							
【高齢化率】 15.9%							
【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。							
	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が配布している「冷蔵庫保管用安心カード」の更新のお知らせを全戸配布する。町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者には、民生委員が安心カードを配布する。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「認知症徘徊声かけ訓練」を実施する。	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て5月の「高齢者実態調査」の際に配布する。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」を実施した。	A		
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	子ども達の安全を守るため、地域住民がセーフティウォッチャーに協力する。 また、小学校や保育園の「昔遊び」に地区部会が協力し、児童の健全育成を図るとともに、地区子ども会と連携し、行事等を通じて地域住民との交流を促進する。	子ども達の安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。 また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等も実施できた。 地区部会では、蘇我小学校から依頼を受け、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月2回実施している「わくわくキャンパス」には、内容に応じて参加・協力している。 また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力した。 さらに、地区の子ども会行事の際には地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画するようにしている。 主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、「本の読み聞かせ」を全学年対象に実施している。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度取組の方向性
蘇我地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施する。 また、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実を図る。	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。 また、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実を努めた。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」や「ふれあい・散歩クラブ」を定期的に開催するとともに、高齢者向けの健康講座を年1回開催し、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。 また、スポーツ振興会や老人クラブが行っているスポーツ活動に、地区部会として協力する。	地区部会では、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として、「ふれあい・散歩クラブ」を年4回、「ふれあい・いきいきサロン」を年16回実施した。特に「ふれあい・いきいきサロン」では、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持に努めるとともに、落語を取り入れるなど、参加者に楽しんでもらえるようメニューを工夫した。 また、健康促進に関する講座を年1回開催するとともに、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動に地区部会として協力し、高齢者の健康増進を図った。 蘇我いきいきセンターでは、シニアリーダー体操が月2回行われている。	A		
	⑫ 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	2	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施する。	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施した。 なお、今後の支援内容について検討している。	A		
	⑮ 防犯対策の推進	6	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンにおいて「振込詐欺の対応や防止策」についての講座を開催し、防犯意識の向上を図る。 また、育成委員会において、週割して行っている青色パトロールを、各町内自治会と連携し、継続して実施するとともに、各町内自治会が定期的に防犯パトロールを実施し、地域防犯力の向上を図る。	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンでは、「振込詐欺の対応や防止策」について講座を開催した。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。 地域住民が「こども110番の家」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4子どもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性	
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	平成28年6月に発足した「地域運営委員会」において、関係団体と連携し、地域課題の解決に取り組むとともに、福祉課題に取り組みやすくするため、地区部会補助金の統合補助金化等を行政に働きかける。 また、地域ケア会議を本来の困っている方をケアする会議にするよう働きかけるとともに、地域で具体例作りを努める。	(1)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍において、地域福祉活動にどう取り組むべきか、万全の対策を行い、3回、延べ260名の参加を得た。また、講演内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (2)避難所の立上げ等の訓練は、11/8の市の訓練日を中心に、規模を縮小して実施した。多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (3)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施し、結果として、不審者の出没を蘇我中学校区で2件(地区部会エリアでは0件)に抑制できた。令和2年度はコロナの為か、千葉市の不審者総数は半減し、中央区全体で24件であった。蘇我中学校区の人口は中央区全体の1/5強なので、発生頻度は中央区の半分以下との結果が得られた。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマット10セットをはじめ、トイレキット、ランタン等の充実を図る事ができた。 (5)地区部会補助金の統合補助金化や地域ケア会議の充実等はコロナ禍で会議等を開催できず、特に進展は無し。あんしんケアセンターとは、フレイル対策にも重点的に取り組むこととし、このテーマで出前講座を実施したところもあった。 計画期間をとおして、概ね予定どおり取組みを実施した。	A	概ね計画どおり、特に、「子育てサロンの充実」では、目標を上回る取組みを実施することができた。 一方、担い手の高齢化という問題もあり、若い世代、次の世代の担い手を確保していく必要がある。 また、町内自治会長の交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりも必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	
【人口・世帯数】 25,294人、12,481世帯			地区部会が、社協区事務所と協働し、地域支えあい活動を推進する。 また、支えあい活動のボランティアの募集を定期的に行って増員を図り、ボランティアの研修会を実施するとともに、地域支えあい活動の活性化のための研修会を開催する。	7 9	(1)令和2年度の活動開始に際して、コロナ対策を第一に考え、支え合い活動では、ゴミ出し等「生活必須」のものを中心に実施することにした。 (2)それでも、昨年までPRに努め、本年も「地区部会だより」でPRした効果もでて、目標とした25件/日を初めて達成できた。	A		
【町内自治会数】 41町内自治会			現在、実施している見守り活動は高い水準で行えていると思うが、町内自治会長の変更等により取り組み状況に差が生じないよう、勉強会等を開き、活動の底上げを図る。 また、見守り希望者、見守り協力者については、毎年更新が必要となるため、更新の実施に向けて各町内自治会に働きかける。	1	(1)コロナ禍でいろいろ苦労があったが、防犯/パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できた。 (2)勉強会・講演会等は開催しづらかった為、町内自治会によっては、実施内容に差がついてしまい、希望者・協力者の更新が進んでいないところも認められた。 計画期間をとおして、概ね計画どおり取組みを実施した。	A		
【高齢化率】 24.9%			地区部会内にある7つの避難所全てで避難所運営委員会が設置されており、年1回以上の避難所立上げ・運営訓練や安否確認・避難支援の訓練を継続して実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、住民意識の維持向上や、運営委員会のレベルアップのため研修会等を実施し、地域全体のレベル向上を図る。	6	(1)例年、7か所すべての避難所で安否確認訓練、避難支援訓練、避難所立上げ・運営訓練等を実施しており、概ね計画どおり実施した。令和2年度は、避難所の立上げ等の訓練は、11/8の市の訓練日を中心に、規模を縮小して実施した。多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和2年度は実訓練がしづらい状況だったため、多くの避難所運営委員会では、マニュアルの見直し等を行った。	A		
【地域の特徴】 ○白旗、鶯の森町、今井町、大蔵寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。								

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
白旗台地区部会エリア	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	セーフティウォッチャー活動や子ども110番のいえ活動、あいさつ運動を継続して実施するとともに、子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練は前回の実施から時間が経過しているため、再度実施するか検討・対応する。 また、子ども達とも顔見知りになるよう、町内自治会や青少年育成委員会等の実施する事業に地域の人達がより多く参加するよう働きかける。 さらに、青色回転灯装着車によるパトロール活動は継続して実施できるよう協力する。	(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。 (2)子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練の再検討は、コロナ禍で会議が開けず、実施できなかったが、青色回転灯装着車によるパトロールは①の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助やドライブレコーダーの貸与は本年も進展した。 (3)更に、蘇我中1年生全員(約300名)を対象にした「子供による子供のための子供権利条約」の読書感想文事業は、本年度も1年生ほぼ全員の参加が得られ、内容もかなり充実していた。	A		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会がふれあいいきいきサロンを月1回開催するとともに、各町内自治会に働きかけ、ウィークリーサロンを目指して開催回数の増を行うとともに、身近な集会所等で行う、ふれあい・いきいきサロンを実施する町内自治会の数を増やす。 また、町内自治会や民児協と共同で、引きこもりの人がいないか調査が必要か検討し、結果によっては参加の働きかけを行う。 さらに、サロンでは、出前講座を活用した学習的要素や健康づくりの要素を取り入れたものも実施する。	(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいいきいきサロンは、参加者のコロナ感染症を心配して、9会場すべてで中止とした。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分行いながら半分近く実施できた。 (3)実施した中には、あんしんケアセンターを講師に「フレイル対応」をテーマに実施したのもあった。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	ふれあい散歩クラブ活動の更なる拡大を図るとともに、ふれあい・いきいきサロンに取り入れている介護予防や転倒防止運動を拡充する。 また、スポーツ振興会等の行事に協力し、高齢者の参加を促進する。	(1)ふれあい散歩クラブ活動は、コロナ禍でも比較的多くの自治会で実施でき、開催見合わせは1会場のみだった。 (2)いきいきサロンでの健康体操についても継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催の行事では、市民体育祭はいずれも中止となったが、高齢者が多く参加するグランドゴルフ大会は、例年より回数を増やして実施したところもあった。グランドゴルフは高齢者にとって一番ポピュラーなスポーツとなったが、フレイルの為か、参加人数減のところが多かった。 (4)障がい者スポーツの普及については、あまり実績は残せなかった。	A		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	放課後子ども教室の各小学校での実施を継続し、内容によっては参加する。 また、地域で行われている各種スポーツクラブや学習クラブ等を紹介する充実した内容の冊子を作成、配布済みであるが、前回の配布から時間が経過しているため更新の検討を行う。 さらに、スポーツ振興会の市民体育祭や青少年育成委員会の歴史散歩事業等の行事に協力し、子ども達の参加の機会を増やす。	(1)「放課後子ども教室」、「蘇我の歴史散歩」、スポーツ振興会の市民体育祭はいずれも中止とした。 (2)その他の事業についてもほとんど中止としたため、特に高齢者のフレイルの心配が高まった。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
白旗台地区部会エリア	⑨ 子育てサロンの充実	4	月4回の「子育てサロン」を継続実施し、子育て中の親子・地域住民との交流の場とする。 子育てに必要な知識を学ぶため、専門機関との連携も図り、講師として依頼する。	(1)7月より公民館が会場のもの、共栄会館が会場のもの、両方とも再開したが、近隣の小学校でコロナ感染者が出たため、その後は休止した。 (2)子育てサロンについては、コロナ感染症を心配する母親が、高齢者より人数も心配する度合いも強いように感じた。	S		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が主催する地域住民も参加できる講座、研修会を年5回以上開催する。 また、コミュニティづくり懇談会等の実施する研修会・講演会に協力し、より多くの人に聞いてもらえるよう努めるとともに、参加者に地区部会活動に参加してもらえるよう、働きかけを行う。 さらに、市の出前講座等を町内自治会でも積極的に取り入れるよう働きかけ、参加者拡大に協力する。	(1)研修会については、会場の問題もあって、いずれも実施を見合わせた。 (2)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍において、地域福祉活動にどう取り組むべきか、万全の対策を行い、3回、延べ260名の参加を得た。また、講演内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会でも出前講座を実施。	A		
	⑱ 防犯対策の推進	6	各町内自治会の防犯パトロール隊結成率80%以上を確保・継続するとともに、パトロール回数を週1回以上実施するよう働きかける。 また、青少年育成委員会が中心となり、青色回転灯装着車によるパトロールを、学校の登下校時に合わせ、毎日3台以上で実施するとともに、子ども達の不審者に対する意識を高めるため、学校と協働で事業を行う。 さらに、町内自治会等とも共同で、防犯に関する講座・研修会を開催し、防犯意識の高揚を図る。	(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、コロナ禍にも関わらず、多くでほぼ例年通り実施できた。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施し、結果として、不審者の出没を蘇我中学校区で2件(地区部会エリアでは0件)に抑制できた。令和2年度はコロナの為か、千葉市の不審者総数は半減し、中央区全体で24件であった。蘇我中学校区の人口は中央区全体の1/5強なので、発生頻度は中央区の半分以下との結果が得られた。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	地域内の7つの避難所で避難所運営委員会が、安否確認や避難支援、避難所の立ち上げや運営訓練等の訓練を継続して年1回以上実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、各避難所の備蓄品の充実を図るとともに、各団体と協力して防災に関する講座・研修会を年1回以上開催し、防災意識の高揚を図る。	(1)避難所の立上げ等の訓練は、11/8の市の訓練日を中心に、規模を縮小して実施した。多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和2年度は実訓練がしづらい状況だったため、多くの避難所運営委員会では、マニュアルの見直し等を行った。 (3)避難所備蓄品の充実については、エアーマット10セットをはじめ、トイレキット、ランタン等の充実を図る事ができた。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度取組の方向性
生浜地区部会エリア	<p>① 地域支えあい連絡会の設置・推進</p> <p>② 支え合い活動の仕組みづくり</p> <p>③ 見守り体制をつくる</p> <p>④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援</p> <p>⑤ すべての子どもを地域で育てる</p> <p>⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実</p>	<p>9 10</p> <p>7 9</p> <p>1</p> <p>6</p> <p>4 6</p> <p>2</p>	<p>平成27年4月に地域運営委員会を設立し、子どもの見守りを検討する「青少年部会」、高齢者及び要支援者が安心して暮らせるための見守りを検討する「高齢者・要支援者部会」、避難所開設や避難訓練の企画立案と避難のあり方を検討する「防災部会」を設け、各部会を中心に地域課題の解決に取り組む。</p>	<p>「生浜地区地域運営委員会」の中の「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会で、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するため、継続して協議をした。</p> <p>また、同事業の推進にあたって、地区内の福祉事業所にも協力をいただいております、各事業所との連携が深まっている。</p>	A	<p>概ね計画どおり取り組みを実施した。</p> <p>安定した事業運営のためには、担い手や活動拠点を確保する必要がある。</p>	<p>・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。</p>
<p>【人口・世帯数】</p> <p>25,425人、11,918世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>11町内自治会</p> <p>【高齢化率】</p> <p>24.9%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>○村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古からの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。</p>			<p>地区部会を中心に、高齢者のちょっとした生活上の困りごとを手伝う支えあいの仕組みづくりを行う。</p>	<p>地区部会のボランティア委員個人の活動として行っていた買い物やゴミ出し等のちょっとした困りごとを手伝うボランティア活動を組織的に行うため、「安心サポート生浜」(仮称)設立準備委員会を立ち上げ、組織化に向けた検討を行った。</p> <p>また、障害者支援施設ハピネス浜野の協力により、地区部会の会議や事務作業等を行う場所として、同施設の集客室を利用している。</p>	A		
<p>要支援者が、地域で安心して暮らせるよう、民生委員が支援を必要とする人の同意を得、町内自治会と協力し、日頃のさりげない見守りを行う。</p>			<p>一部の町内自治会で見守り体制を構築し、活動を行っており、未実施の地域では、各町内自治会と民生委員が見守りの仕組みづくりについて協議を継続している。</p>	B			
<p>地域運営委員会の「防災部会」で、災害時要支援者の避難支援体制について検討する。</p> <p>また、各避難所運営委員会が、避難訓練を実施するとともに、九都県市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練と避難所運営委員会を開催する。</p>			<p>6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、3月8日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。</p> <p>また、福祉避難所として行政から指定されている事業所に対し、一次避難所として避難者を受け入れていただけるよう、共通理解を図っている。</p>	A			
<p>地域運営委員会の「青少年部会」で、子どもの安全を守るための見守り活動について検討する。</p> <p>また、各小学校の「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、子どもの安全を守る活動を推進する。</p>			<p>学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。</p> <p>また、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。</p>	A			
<p>地区部会が、高齢者の集える場所を設け、仲間づくりや健康増進を図る機会を増やすため、隔月開催であった「ふれあい・いきいきサロン」を月1回開催する。</p> <p>また、福祉施設を利用しての高齢者の居場所づくりや、中央区健康課のヘルスサポーター養成教室を活用した地域で運動を継続するグループのリーダーを育成する。</p>			<p>地区部会では、「いきいきサロン」8会場で実施し、高齢者が交流や健康増進を図る機会を提供した。(2会場で週1回、1会場で月3回、1会場で月2回、4会場で年10回)</p> <p>老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を多数開催している。</p>	S			

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
生浜地区部会エリア	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、シニアリーダーによる健康体操を町内自治会と協力し広げていく。	地区部会では、いきいきサロンにおいて、区健康課やあんしんケアセンター浜野の協力で血圧測定や健康指導を開催しており、内容の充実を図っている。 老人クラブや体育振興会では、グラウンドゴルフ大会を開催している。 公民館や一部の町内自治会では、シニアリーダー体操教室を実施している。 一部の町内自治会では、あんしんケアセンター浜野の協力による定期的な健康体操や、毎朝のラジオ体操を実施している。有志の集まりによる毎朝のラジオ体操もある。	A		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	生浜地区体育祭や育成委員会主催の子どもふれあい祭り等の地域行事の際、子ども会と協力し、子どもの参加者増に努め、子ども達の健全育成を図る。	スポーツ振興会が、町内自治会の協力を得て「生浜地区体育祭」を開催し、地域の子ども達がスポーツに触れる機会を設け、子ども達の健全育成を図った。 育成委員会が、「子どもふれあい祭り」を開催し、昔遊びの体験等を行っており、地区部会としても体験コーナーを設けて参加し、地区部会のPR活動を行った。 各町内自治会では、餅つき大会や子どもの日イベント等を開催するとともに、地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A		
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年39回、子育てサロンを開催する。 また、幼稚園・保育所・保育園との情報交換会を実施するとともに、地区内の災害ボランティアが、災害時に、保育所等の支援を行う。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、4会場で年間39回、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。区健康課等の専門職と連携を図り、内容の充実に努めた。 また、7月に幼稚園・保育所・保育園と情報交換会を実施し、子どもに関する問題について意見交換を行った。 さらに、災害時に幼稚園・保育所・保育園を支援する災害ボランティアを募り、災害時の支援体制を整えている。	A		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	障がい者を理解するための勉強会や施設訪問を実施する。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。 さらに、障がい者施設での作業補助や、施設が主催する祭り等の行事への参加、あるいは地域の祭り等に障がい者を招待するなど、障がい者と地域住民との交流を図る。	地区部会では、障がい者委員会が、障がい者への理解を深めるため施設訪問を実施するとともに、障がい者施設で施設内の清掃や施設行事を手伝うボランティア活動を行った。 また、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いた車いすバスケットボール体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	A		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	各町内自治会の盆踊り、運動会、お祭り等、誰もが参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図る。	スポーツ振興会が町内自治会の協力を得て実施した「生浜地区体育祭」や、各町内自治会が実施しているお祭り等、年齢を問わず参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図った。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
生浜地区部会エリア	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が開催するふれあいいきいきサロンや子育てサロンで、スタッフが気軽に相談を受け付け、対応できないものは専門機関に繋げる。	地区部会では、ふれあいいきいきサロンや子育てサロンにおいて、スタッフが参加者の相談に応じ、対応できないものは専門機関を紹介する等、参加者が気軽に相談できる環境づくりに取り組んだ。 地域では、町内自治会や民生委員、ボランティア委員会が個別の相談に対応している。	A		
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	青少年育成委員会が、「敬老の集い」に中学生をボランティアとして参加させ、地域の高齢者との交流を行う。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。	各町内自治会で実施している敬老会に中学生がボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 地区部会では、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いた車いすバスケットボール体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。 育成委員会で実施している「子どもふれあい祭り」に中学生が吹奏楽や運営補助のボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、参加者との交流を図った。 地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A		
	⑱ 防犯対策の推進	6	防犯パトロールが組織化している町内自治会は、定期的に防犯パトロールを実施する。 併せて警察と連携し、防犯講習会等を開催し、地域防犯力の向上を図る。	地区部会では、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。 また、いきいきサロン等で、防犯に関する注意喚起を促した。 防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的に防犯パトロールを実施した。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	防災会の結成されていない町内自治会は、防災会の結成を目指す。 また、地域運営委員会の「防災部会」で、地域の防災について検討するとともに、地域全体で、年1回の防災訓練を実施する。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、令和2年3月8日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。 第13地区町内自治会連絡協議会の11町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
松波地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,764人、2,622世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 25.1% 【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。 また、サロンの内容を工夫し、参加者の増加を図る。	いきいきサロンは、週2回のグラウンドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で開催するとともに、月2回の脳トレを松波公民館で開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。 また、手芸を通じて、近隣の介護付き有料老人ホーム入所者との交流を図った。	A	概ね計画どおり取り組みを実施した。 安定した事業運営の為に、関係団体との連携を円滑にする必要がある。また、担い手を確保する必要がある。	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、すべての取組を実施する。
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、工作、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A		
	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年5回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年5回発行した。 また、松波町会のホームページに、地域の関係団体(地区部会、民児協、商工会、老人クラブ)のページを追加し、地域情報の充実を図った。	A		
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。 また、パラリンピックの開催に向け、地域で障害者理解の啓発を図る。	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加するとともに、赤い羽根の歳末募金に千葉商業高校青少年赤十字の生徒が協力し、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けた。 町会の夏祭りには、クラーク記念国際高校の生徒が参加し、子どもと山車を一緒にひいたり、ダンスやバンド演奏を披露した。 障害者理解の啓発を図る取組として、パラリンピック競技種目であるゴールボールのアジア大会を見学した。	A		
松ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,920人、5,687世帯 【町内自治会数】 37町内自治会 【高齢化率】 28.6%	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続して実施する。 また、研修会や報告会を通じて、問題点を改善しながら、より良い活動となるよう努める。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。 また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。	S	概ね計画どおり取り組みを実施したが、事業を継続していくために、担い手を確保する必要がある。時間をかけて、あきらめずに地域活動への参加を呼び掛けることが大切である。	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして実施する。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館を会場に週1回、葵幼稚園を会場に不定期ではあるが、介護予防教室を実施する。 また、「いきいき散歩クラブ」を月2回実施するとともに、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」において、淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を開催する。 さらに、各町内自治会において、有志によるグラウンドゴルフを定期的に行い、スポーツ振興会が中心となり大会を開催し、高齢者の健康増進を図る。	地区部会では、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を行った。 また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、葵幼稚園(不定期)、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、都苑(不定期)、第3公園(週1回)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催している。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。	S		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
松ヶ丘地区部会エリア 【地域の特徴】 ○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年では過去においては川鉄及びその関連会社が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が、年3回、広報誌を発行するとともに、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、地域情報の発信に努める。 また、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A		
川戸地区部会エリア 【人口・世帯数】 6,935人、3,274世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 33.0% 【地域の特徴】 ○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部立て、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が主催する行事や活動(バス研修旅行、敬老会、福祉バザー、見守り隊の活動、お助け隊の活動)については、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交換を図りながら、関係団体の協力を得て実施している。	A	概ね計画どおり取り組みを実施したが、担い手不足で役員に負担がかかっており、安定した事業運営のためには、担い手の確保が必要である。	・基本的な感染対策を行いながら、すべての取組を実施する。 ・令和2年度については、活動中止が多く、交流の場は全くなかったため、令和3年度には活動を開始させたいと、再始動は難しいと判断しているため、小規模であっても以前の活動を行いたい。
	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、地域の各種団体等と連携し、ひとり暮らし高齢者等に対する日常的な見守り体制を強化し、声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。	A		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、月1回、ふれあい・いきいきサロンを実施する。 また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような企画を考える等、参加者の増加に努める。	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年9回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討し、参加者の増加に努めた。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地域の団体が、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るための活動を推進する。	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。また、各町内自治会がグランドゴルフを実施し、高齢者の健康維持を図った。	A		
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。 また、民生委員・児童委員と連携して対象者を把握し、個別にサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努める。	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年10回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問してサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性			
川戸地区部会エリア	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会や町内自治会等が、敬老会や福祉バザー、盆踊り等、地域住民が気軽に参加できる行事を実施し、世代間交流を図る機会を設ける。	地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会を設けた。また、「福祉バザー」を開催し、世代を問わず参加できる地域行事を通じて交流を図った。 また、地域の団体が、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等を実施しており、様々な地域行事を通じて住民の交流を図った。	A					
	⑫ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行する。	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行した。	A					
星久喜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域運営委員会の設置に向けて、各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら、役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりを行う。	平成30年4月に設立した地域運営委員会では、地域の関係団体が実施するイベント等の日程調整を行うなど、連携強化に努めた。 また、防災意識の向上を図るためのHUG体験やハイゼックス体験を実施するとともに、高齢者のひきこもり防止の一環として中学生合唱コンクールにひとり暮らし高齢者を招待した。(「こども110番のいえ」の方と顔見知りになるためのウォークラリーを予定していたが雨天中止となった。) さらに、地域運営委員会のホームページを開設し、関係団体の情報発信に努めた。	A	概ね計画どおり取り組みを実施したが、担い手の後継者がいないことや、町内自治会長が毎年替わるところがあり、引き継ぎが難しいなどの問題もある。 安定した事業運営のための担い手の確保や町内自治会との連携強化が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、徐々に活動を再開する。 ・基本的な感染対策を行いつつ、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして活動をを実施する。			
【人口・世帯数】 11,703人、5,673世帯		⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、毎日の登下校時にセーフティウォッチャー活動を実施し、小・中学生を見守った。 また、小学校PTAが自転車パトロールを行うとともに、青少年育成委員会が、学区内パトロール、子ども達と一緒に清掃活動、長期休暇前の学区点検を実施した。 さらに、育成委員会と公民館が共催し実施している「お泊りin星久喜」や、育成委員会と地区部会が共催し実施している「書き初め展」等の行事を通じて、子ども達との交流を図った。			A		
【町内自治会数】 24町内自治会			⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあい・いきいきサロン」を継続して実施する。			地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、理学療法士による「歩き方」講座や栄養士による「食生活」講座等を内容とした、いきいきサロンを年6回実施(2回は雨天中止)し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A	
【高齢化率】 26.2%				⑨ 子育てサロンの充実	4			地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを継続して実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、栄養士や歯科衛生士からの話、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A
【地域の特徴】 ○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。					⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進			3 8	地区部会が、障がい者への理解に関するテーマを取り入れた研修会を開催するとともに、地域の障がい者施設でのボランティア体験などを通じて、障がい者との交流を図る。	地区部会が、障がい者に対し地域でどのような支援が出来るか考えるきっかけとするため、聴覚障がい者協会の方を講師に招き手話体験を実施するとともに、障がい者福祉委員会が11月上旬にある公民館主催の文化祭にて、作業所の作品を施設利用者と共に販売した。 また、星久喜小スポーツ振興会主催のふれあい大運動会には、星久喜小・中学校の特別支援学級の生徒が参加し、障がい者との交流を図った。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
星久喜地区部会エリア	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会が、青少年育成委員会等の関係団体と連携し、星久喜公民館における大人と子どもの宿泊イベント等、各世代が気軽に参加できる行事を実施するとともに、敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設け、世代間交流を図る。	星久喜小スポーツ振興会主催の「ふれあい大運動会」や「バスハイク」、育成委員会と公民館が共催し実施している「お泊りin星久喜」等、各世代が参加できる地域行事を通じて交流を図った。 また、地区部会が実施している敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加し交流を図った。	A		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、理学療法士による「歩き方」講座や栄養士による「食生活」講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けた。 また、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進に取り組んだ。	A		
千葉みなと地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域支え合い連絡会を設置し、地区毎(千葉港・中央港・問屋町)の課題を把握するため、民生委員・児童委員の他、PTA等の学校関係者や企業も巻き込んだメンバーで意見交換会を実施する。	町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合を2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。 また、地域支え合い連絡会の設立に向け、必要な人材やボランティア、福祉活動推進員を確保するため、令和2年2月発行の地区部会だよりに募集記事を掲載した。	B	一部目標は達成したものの、支え合いや見守りの体制の構築には至らなかった。 自治会館や公民館のような場所がないので集いたくてもできない。最大の課題は場所の確保と、それを支える要員の確保。 安定した事業運営のためには、担い手や活動拠点の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
【人口・世帯数】 10,225人、4,257世帯			ひとり暮らし高齢者や要介護者等について、まずその存在確認体制を構築し、必要に応じて安否確認・見守り活動が必要な方々に対してサービスが提供できるよう体制を整備する。	民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。	B		
【町内自治会数】 11町内自治会			避難所運営委員会と協力し、災害時の物資供給が遅延なく行われる体制を整備する。 また、各世帯に的確な情報を提供し、日頃から災害に強いまちづくりを図る。	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。 各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。	A		
【高齢化率】 11.4%			③ 見守り体制をつくる	1			
【地域の特徴】 ○中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。	⑱ 防災体制の充実	6					